

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り



Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.176

▽トピックス

1 国際交流員のコラム

- 太平洋上に光り輝く深い緑の宝石:奄美大島(後編)
- 鹿児島県国際交流員 スノーデン・ジョセフ(イギリス出身)

2 知事の動き

- イギリスの自治体幹部が訪問されました(1月17日)
台湾との交流
・台湾の高級スーパー「裕毛屋」の謝社長が訪問されました(1月16日)
・台湾でトップセールスを行いました(1月30日)

3 最新情報

鹿児島県の新しいPRキャッチコピーが決まりました！

4 観光かごしま旬の情報

忠元公園(伊佐市)

国際交流員のコラム

●太平洋上に光り輝く深い緑の宝石：奄美大島(後編)●(本記事は、第175号の続きです。)
— 鹿児島県国際交流員 スノーデン・ジョセフ(イギリス出身)

(5)フクギ並木・宮古崎

2日目は期待を抱き、朝早く起きました。まずはフクギ並木を視察するために、国直海岸へと向かいました。

国直に到着してすぐに気づいたことは絶景の海辺でした。私は短い散歩だけでも十分楽しみましたが、国直の住民は海辺を広場として扱い、そこで話を共有しながら、一緒に飲んだり、ゲームをしたりするようです。ウミガメの産卵地としても有名なので、海洋生物に興味のある方にもおすすめです。



国直の海辺



琉球文化の名残やインスタ映えのスポットもたくさんありました！

フクギ並木は海岸に直面しています。フクギは密集しても問題なく成長するため、並べて植えると生きている壁になります！元々は防風、防火林として植えられましたが、今は写真撮影やウェディングフォトに人気の観光スポットです。クリスマスの時期にはフクギの垣根をクリスマスライトで飾り、「フクギナイト」というイベントが開かれます。



フクギ並木

フクギ並木を少しづらづらした後、北へ向かって遊歩道を通り、宮古崎にたどり着きました。1年中風がとても強く、木が育たないため、代わりに大人の腰の高さまでしか育たないリュウキュウササが一面を覆っています。このため、視界を遮るものがなく、水平線まで見通すことができます！とても不思議で独特な場所でした。



リュウキュウササで覆われている宮古崎

(6) 奄美大島世界遺産センター



世界遺産認定書

次の目的地は 2022 年7月に開館した奄美大島世界遺産センターでした。多くの人々に奄美大島の世界自然遺産の価値を理解してもらうために造られた総合拠点で、興味を惹かれる展示室とミュージアムショップが整っています。



奄美大島世界遺産センター



ミロコマチコさんの壁画

施設に入るとまず奄美大島在住の絵本作家、ミロコマチコさんが描いた迫力のある壁画が待っています。奄美大島の生態系をテーマにした魅力的なイラストで、子供も大人も楽しめます。

展示室内は奄美大島の森を再現しており、15分ごとに照明の色や壁に映っている映像内容が変わり、昼の森と夜の森を両方鑑賞することができます。奄美大島の動植物の特徴について学びながら、進化の過程は本当に素晴らしいと何回も思っていました。



展示室の様子

壁に書いてある説明は日本語と英語で書いてありますし、多言語でのガイド・説明書も配布されており、世界中の人々が楽しめる場所です！

(7)黒潮の森 マングローブパーク(カヌー体験)

奄美大島世界遺産センターのすぐ隣に、日本で2番目に広いマングローブ原生林があります。マングローブパークという施設ではグラウンドゴルフ、セグウェイ体験など、マングローブをいろんな形で楽しめますが、今回、私は奄美大島の定番観光活動、カヌー体験をさせていただきました！

まずカヌー乗り場に歩いて行き、ライフジャケットやパドルを渡されてから、ガイドさんに基本的な漕ぎ方などを説明していただきました。説明はゼロから始まるため、私と同様の初心者の人でも安心して参加できます。そのあと、カヌーに乗り、マングローブのトンネルへと出発しました！



カヌー体験

潮の流れで漕ぐ必要はほとんどなく、写真を撮たくさん撮りながら、ゆっくりと眺めを楽しみました。マングローブのトンネルの到着後に、ガイドさんからマングローブの種類やマングローブパークで見られる野生動物について説明がありました。



マングローブの説明中

マングローブのトンネルはとても不思議で、私が今まで経験したところとも全く異なる、世界の中でもとてもユニークな場所に来たと改めて感じました。マングローブのトンネルの雰囲気に入り、長くそこにいたかったです！帰りは潮の流れに逆行し、頑張って漕ぎ続けたあと、私はすっきりとした気分になりました。

(8)三太郎崎(アマミノクロウサギ観察)

2日目の夜は島の中心部に行き、アマミノクロウサギという絶滅危惧種を観察するため、三太郎崎を通りました。アマミノクロウサギは道路の真ん中にも出てきますので、事故を防ぐ対策として自動車の台数が制限されており、事前予約が必要ですが、奄美ならではの体験なので本当におすすめです！

ガイドさんのおかげでアマミノクロウサギを6匹ぐらい見ることができ、私は感動しました。なお、その他にも、様々な野生動物の鳴き声も聞こえました。

極めて独特な生態系は奄美大島が世界自然遺産に登録された理由の一つで、このように奄美の生物多様性を直接観察することは非常に貴重な経験だと思いました。



三太郎崎で見かけたアマミノクロウサギ

(9)富田酒造場

3日目朝、まだアマミノクロウサギ観察の楽しみの余韻に浸っていましたが、奄美を代表する黒糖焼酎を造る富田酒造場を訪れました。この酒造場では「龍宮」や「まーらん舟」など、人気の黒糖焼酎を製造するだけでなく、見学ツアーも提供しています。奄美の黒糖焼酎の蔵元の中では比較的小規模な酒造場で、私は最初から親しみを感じました。しかも、富田さんの説明によりますと、その地域はイギリスとの歴史的な繋がりがあり、私はイギリス人として更に親近感を持ちました。



富田酒造場の正面



富田酒造場の黒糖焼酎



イギリスとの繋がり

富田さんの見学ツアーは興味深く、私が以前訪れた芋焼酎の蔵元と比べ、様々な相違点があり、比較すると面白かったです。例えば、焼酎の製法には「仕込み」という工程があり、これは原料が発酵している「もろみ」を造ることが目的です。この工程では原料を甕(かめ)という床に埋められたタンクに入れますが、奄美大島の気候が本土に比べてより暖かいため、ここでは甕の下の部分だけが埋められています。



もろみの入っている甕

個人的に言いますと、今回の見学ツアーのハイライトは黒糖の味見でした。沖縄産と奄美産黒糖を両方食べることができ、味には以外と差がありました。富田さんがその違いの原因を説明してくださいました。

「ウィンド・テスト(Wind Taste)」,つまり、黒糖の原料であるサトウキビが育ちながら潮風を受け、味が付きます。ただ、産地によってサトウキビは潮風にさらされる程度などが異なりますので、結局黒糖の味(ウィンド・テスト)も異なります。富田酒造場では、「龍宮」は沖縄黒糖で造られている一方、「まーらん舟」は奄美黒糖で造られているため、両方を試飲することをおすすめします。



富田酒造場で使う沖縄産黒糖

最後に、黒糖焼酎のおすすめの飲み方はあるのかと富田さんに質問してみましたが、その返答には驚きました。

「いえ、ただ黒糖焼酎を楽しんでいただきたいので好きなように飲んでください。」

イギリスでは、私はワインをよく飲みましたが、ワインの飲み方についてのルールがたくさんあり、ワインのペアリングなどが重要です。一方で、富田さんは黒糖焼酎を自由に飲み、ストレート、水割り、ソーダ割など自分に合っているスタイルを見つけることをお勧めしてくださいました。その観点は私にとって、黒糖焼酎そのものと同じくさっぱりしているように感じました。

私は富田さんにお礼し、「まーらん舟」を一本買ったあと、最後の目的地へと向かいました。



「まーらん舟」を手に持ち、富田酒造場を後にしました

(10)大島紬村

奄美には昔から伝わった特産物があります。世界三大織物とされる大島紬は光沢を持つ絹織物で、奄美大島に行く機会があれば絶対に見逃せません！

紬でよく使う龍郷柄というモチーフで覆われた看板など、奄美大島の様々なところで大島紬の存在を感じることができますが、もっと知りたい方は大島紬村をお勧めします。

私が大島紬村に到着すると、亜熱帯植物庭園の素敵な花に出迎えられました。奄美を代表するルリカケスの鳴き声を聞き、奄美の冬の始まりの象徴であるリュウキュウアサギマダラを観察しながら、泥染め体験や見学ツアーを待ちました。



大島紬村の亜熱帯植物庭園

ワクワクしながら泥染め体験エリアへ向かいました。泥染めの先生の説明を興味深く聞いてから、私はハンカチを手に持ち、深い茶色の背景に白い花柄というモチーフで染めるために折り始めました。ハンカチを折ったあと、シャリンバイという植物でできた染料を使い、3回染めました。ハンカチは短時間だけ染料に浸っていましたが、意外と濃い赤ワインの色になりました。

そして、泥田へ向かい、柔らかい泥の中にハンカチを埋めました。泥の中の鉄分がシャリンバイの染料に含まれているタンニンと反応し、ハンカチに光沢のある独特なチョコレート色を付けます。ハンカチの出来上がりは個人的に大満足で、奄美の伝統技法によって作ったからこそ得られた、大変貴重な経験でした。



泥染め体験エリア



ハンカチの折り方に集中しています



シャリンバイ染め



泥染め中



出来上がり

染めたハンカチが乾燥している間、私は紬の製造工場へ入り、紬の緻密な模様を作成するのにどれほど高いスキルや繊細な作業が必要か把握することができました。紬の着物などを手で触ることもでき、特に織物の軽さに驚きました。



大島紬村の見学ツアーの様子

まとめ

短い滞在だけでも、私は奄美大島を満喫しました。ルリカケス、アマミノクロウサギ、ヒカゲヘゴなどの動植物、そして奄美の島唄、黒糖焼酎、紬などの伝統、奄美ならではの自然や文化が山ほどありますので、是非奄美大島へ行き、体験してみてください。私と同じく、奄美の大ファンになることを確信しています！

知事の動き

●イギリスの自治体幹部が訪問されました●

1月17日、一般財団法人自治体国際化協会主催の「海外自治体幹部交流協力セミナー2022」が本県で開催され、参加者であるイギリスの自治体幹部等12名の方々が塩田知事を訪問されました。

今回のセミナーのテーマは、本県のカーボンニュートラルの取組とのことでしたので、2050年までに温室効果ガス排出量実質0にするカーボンニュートラルを目指していることをお話しました。

また、知事からは、本県は薩摩藩の時代からイギリスと交流があり、現在はロンドン・カムデン区及びマンチェスター市と友好協定を締結していることをお伝えするとともに、滞在中に本県の美味しい食材や自然、温泉をご堪能いただき、鹿児島を好きになっていただきたい旨お話しました。



表敬の様子

●台湾との交流●

・台湾の高級スーパー「裕毛屋」の謝社長が訪問されました(1月16日)

1月16日、台湾の高級スーパー「裕毛屋」の謝社長が、台湾への県産品輸出拡大に関する報告及び台湾直行便の再開に関する意見交換のため、塩田知事を訪問されました。

謝社長からは、台湾での鹿児島県産品の人気の高さに加え、鹿児島空港と台湾を結ぶ直行便の再開に向けて尽力したいとお話いただきました。

知事からは、フェアの開催など、これまでの県への協力に謝意をお伝えするとともに、台湾に行くことがあればご協力をお願いしたいとお話しました。



・台湾でトップセールスを行いました(1月30日)

1月30日には、新型コロナにより運休中である鹿児島ー台北線の早期再開に向け、台湾のチャイナエアライン本社を訪問し、世界自然遺産登録となった奄美大島・徳之島や、鹿児島黒牛が第12回全国和牛能力共進会において、前回に続き和牛日本一になったことをアピールし、同路線の早期の就航再開を呼びかけました。

また、同日、日本台湾交流協会台北事務所も訪問し、直行便運行再開に向けたサポート及び台湾との更なる交流促進への協力をお願いしました。

県では、引き続き、一日も早い国際定期路線再開に向けて取り組んでまいります。



台湾訪問の様子



最新情報

●鹿児島県の新しいPRキャッチコピーが決まりました！●

本県は、3つの世界遺産や和牛日本一に輝いた鹿児島黒牛をはじめとする世界に誇れる食や優れた県産品の数々のほか、歴史や文化など、魅力的な資源、すなわち「宝物」を多く有しています。

県では、昨年12月に策定した「鹿児島PR基本戦略」のコンセプト「動かすPR」を踏まえ、「宝物」を有する鹿児島に多くの方々に訪れてほしい、手に取って体験してほしい、また、県民の皆様には鹿児島各地域にある多くの宝物を見つけて認識してほしいという意味をこめて、決定しました。

南の宝[◆]箱 鹿児島

クラシックとモダンを兼ね備えたロゴタイプは、温故知新を表しています。

また、「宝」の文字には、宝物を連想させるキラリと輝く光をポイントとして配し、鹿児島でそれぞれの「宝物」を見つけてほしいという思いが込められています。

鹿児島の魅力に出会うワクワク感を演出するロゴデザインです。

観光かごしま旬の情報

●忠元公園(伊佐市)●



写真協力:公益社団法人 鹿児島県観光連盟

市街地を見渡せる小高い丘の上に位置し、桜の名所として知られています。園内の桜並木は約2キロにも及び、桜の見頃には、千個の提灯でライトアップされ、昼夜異なる表情のさくらを楽しむことができます。

平成2年には「日本さくらの名所100選」に選定されています。

住所:〒895-2506

伊佐市大口原田 2484-193

電話番号:0995-29-4113

(伊佐市役所伊佐PR課)

営業日:通年

(例年の桜の見頃:3月下旬~4月上旬)

交通アクセス:九州自動車道栗野ICから約25分

JR新水俣駅から約40分

駐車場:有



鹿児島県庁ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/>



編集後記(鹿児島県観光・文化スポーツ部国際交流課)

*

今月の「かごしま南の風便り」はいかがでしたか？

これからも、この鹿児島県庁多言語メールマガジンは鹿児島と皆様をつなぐ情報の架け橋となるよう、編集者一同努力して参ります。



「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー

鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。写真の簡単な説明を添えてお送りください(例: 克灰袋の山)。

☆鹿児島暮らしの知恵

鹿児島の生活に関する情報をご共有ください(例: つけあげのおいしい食べ方, 火山灰の対処法)。

その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▲▽▲▽

日本国 鹿児島県 観光・文化スポーツ部 国際交流課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話番号:+81-99-286-2306

FAX 番号:+81-99-286-5522

↓電子メールアドレス

英 語:cir1@pref.kagoshima.lg.jp

韓国語:cir3@pref.kagoshima.lg.jp

日本語:minami@pref.kagoshima.lg.jp

本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。